

## 1. 木質バイオマス関連情報

■ナカバヤシ (株) (東京) のグループ会社「松江バイオマス発電 (株)」(島根)、2 月 21 日に島根県松江市との災害時応援防災協定締結式を実施。同協定は、災害等により電気を共有する必要が生じた場合、松江バイオマス発電の電力を市民等へ無償提供する事を目的として締結。その他、電力の供給は可搬式携帯バッテリー装置 5 台により行うこと、電力の無償提供は松江市内の避難所等への提供を想定、といったことが主な内容。発電所は主に島根県内産の未利用材や製材残材、PKS 等を燃料とし、発電出力は 6,550kW。年間発電電力量は約 50,000,000kWh。バイオマス発電所の脱炭素電源を可搬式携帯バッテリーにより無償電力供給を行う防災システムは全国初の試み【ナカバヤシ (株) : 2025/2/21、松江バイオマス発電 (株)】

<https://www.nakabayashi.co.jp/news/2025/info/1238>

<https://www.nakabayashi.co.jp/mbp/>

■マツダ (株) (本社・広島)、本社工場に設置されている鋳造の基幹設備であるキュボラ溶解炉(以下、キュボラ)において、燃焼時に CO<sub>2</sub> を排出する化石燃料から、カーボンニュートラル (以下、CN) なバイオマス燃料であるヤシ殻由来のバイオ成型炭に全量転換する実証実験を実施し、安定的な操業が確認できたと発表。同社は 2050 年のサプライチェーン全体における CN に向けて 2035 年にグローバル自社工場での CN を実現するために、「省エネルギーの取り組み」「再生可能エネルギーの導入」「CN 燃料の導入等」の三本柱で各種取り組みを進めている。この「CN 燃料の導入等」の取り組みの一つであるバイオマス燃料への全量転換の実用化に向け、2023 年 3 月に有志企業・団体を募り「キュボラ CN 共創ワーキンググループ」を設立。バイオマス燃料化の開発研究や製造法の確立および原料の地場調達に関する調査を行ってきた。今回の実証実験ではヤシ殻由来のバイオ成型炭を使用したが、2024 年 11 月からはタリーズコーヒー ジャパン (株) よりマツダ本社内のタリーズコーヒー店舗で発生する抽出後のコーヒーグラウンズの提供を受けており、バイオ成型炭に製造可能なことを実証実験で確認している。今後、地域連携の輪を拡げて地産地消エネルギー循環スキーム

の構築などを進め、2030 年度までにバイオ成型炭などバイオマス廃棄物由来の燃料によるキュボラの CN 操業を目指す【マツダ (株) : 2025/02/27、PR TIMES : 2025/02/28】

<https://newsroom.mazda.com/ja/publicity/release/2025/202502/250227b.html>

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000479.000020545.html>

■農水省、関係 7 府省 (内閣府、総務省、文部科学省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、環境省) が共同で選定しているバイオマス産業都市について、本年度、新たに神奈川県秦野市を選定したと発表。全国で 104 例目。同市は 2022 年度に「秦野市バイオマス産業都市構想 (基本構想編)」を策定。都市近郊に位置し、下水道汚泥、家畜糞尿、食品廃棄物、剪定枝など日常生活とともに排出されるバイオマスは多品種ながら小規模のものが大半を占めていることから、目指すべき将来像を「多品種少量の都市近郊型バイオマス産業都市」と位置付けている。「秦野産木材の活用」や「木材未利用材の活用」、「再生可能エネルギーの活用」といった基本方針を掲げており、その実現に向けて行う事業化プロジェクトの中には、薪ストーブの補助事業、表丹沢野外活動センターの木質バイオマスボイラ更新プロジェクト、木質バイオマス熱ボイラ若しくはコジェネレーションシステムの整備などが含まれている【農水省: 2025/02/27、秦野市: 2025/03/12】

[https://www.maff.go.jp/j/press/kanbo/r\\_energy/250227.html](https://www.maff.go.jp/j/press/kanbo/r_energy/250227.html)

<https://www.city.hadano.kanagawa.jp/www/contents/1694392107382/index.html>

■日鉄エンジニアリング (株) (東京、以下「NSEJ」) と大阪ガス (株) (大阪、以下「OGJ」) が共同出資する NS-OG Energy Solutions (Thailand) Ltd. (タイ、以下「NSETJ」) が、信越化学工業 (株) (東京、以下「信越化学」) のグループ会社でタイ国東部ラヨーン県においてシリコン製品などの製造を行う Shin-Etsu Silicones (Thailand) Limited (以下「SESTJ」)、Asia Silicones Monomer

Limited (以下「ASM」)、Shin-Etsu New Materials (Thailand) Limited (以下「SENT」) の3社に対し、バイオマスコージェネレーションシステムによる再生可能エネルギー供給事業を行うことを決定したと発表。NSET が本設備 (発電量平均 5.0MW、蒸気供給量平均 40t/h) を SEST 敷地内に設置、保有、燃料調達、操業管理、メンテナンスまでワンストップサービスで行い、タイ国内で産出された主にゴムの木質チップを燃料として製造した電力・蒸気を SEST・ASM・SENT の3社に供給する。同事業は環境省の令和6年度「二国間クレジット制度資金支援事業のうち設備補助事業」に採択されている。この事業により、合計で約 4.8 万 t/年の CO<sub>2</sub> 排出量削減に貢献する見込み【大阪ガス (株) : 2025/02/28】

<https://www.osakagas.co.jp/company/press/pr2025/178610358387.html>

■広島県庄原市、バイオマス巡る弁護士費用訴訟を支払い、和解へ。頓挫した木質バイオマス事業を巡って住民訴訟に敗訴した庄原市に対し、原告側が弁護士費用の支払いを求めていた訴訟。市が原告側に 471 万円を支払って和解する議案を開会中の市議会本会議に提出し、全会一致で可決された【中国新聞 : 2025/03/05】

<https://www.chugoku-np.co.jp/articles/-/606744>

■北海道夕張郡長沼町、旧マオイゴルフリゾート跡地のうち、ゴルフ場エリアの土地建物を活用する契約候補者を JFE エンジニアリング (株) (東京) に決めたと公表 (3月10日)。2024年11月8日より公募を開始し、土地面積 1,980,423.17 m<sup>2</sup>、管理棟、ショートコースクラブハウス、茶屋などの建物を含むゴルフ場エリアの活用について、3事業者の中から JFE エンジニアリングに決定した。同社の提案書によると、カラマツ、トドマツといった針葉樹や早生樹のオノエヤナギの植林を行い、バイオマス燃料化事業の展開に利用。2027年度内にはチップ燃料の生産を開始し、近隣バイオマス発電所へのチップ販売を計画。同社の提案価格は、土地 (賃貸) が 5,615,400 円/年、建物 (売却) が 9,890,000 円 (税抜)。住民説明会開催後、8月にも賃貸及び売買契約を締結する予定【北海道建設新聞 : 2025/03/10、長沼町 : 2025/03/10】

<https://e-kensin.net/n/nc9c1336a0f51>

[https://www.maoui-](https://www.maoui-net.jp/files/00007400/00007405/%E3%83%97%E3%83%AC%E)

[net.jp/files/00007400/00007405/%E3%83%97%E3%83%AC%E](https://www.maoui-net.jp/files/00007400/00007405/%E3%83%97%E3%83%AC%E)

[3%82%B9%E3%83%AA%E3%83%AA%E3%83%BC%E3%82%B9.pdf](https://www.maoui-net.jp/files/00007400/00007405/%E5%AF%A9%E6%9F%BB%E7%B5%90%E6%9E%9C%E5%A0%B1%E5%91%8A%E6%9B%B8.pdf)

[https://www.maoui-](https://www.maoui-net.jp/files/00007400/00007405/%E5%AF%A9%E6%9F%BB%E7%B5%90%E6%9E%9C%E5%A0%B1%E5%91%8A%E6%9B%B8.pdf)

[net.jp/files/00007400/00007405/%E5%AF%A9%E6%9F%BB%E7%B5%90%E6%9E%9C%E5%A0%B1%E5%91%8A%E6%9B%B8.pdf](https://www.maoui-net.jp/files/00007400/00007405/%E5%AF%A9%E6%9F%BB%E7%B5%90%E6%9E%9C%E5%A0%B1%E5%91%8A%E6%9B%B8.pdf)

[https://www.maoui-](https://www.maoui-net.jp/files/00007400/00007405/%E6%8F%90%E6%A1%88%E5%86%85%E5%AE%B9.pdf)

[net.jp/files/00007400/00007405/%E6%8F%90%E6%A1%88%E5%86%85%E5%AE%B9.pdf](https://www.maoui-net.jp/files/00007400/00007405/%E6%8F%90%E6%A1%88%E5%86%85%E5%AE%B9.pdf)

■岐阜県瑞穂市と岐阜バイオマスパワー (岐阜) が、カーボンニュートラル実現に向けた包括連携協定を締結。岐阜バイオマスパワーは染色加工の岐セン (株) (岐阜) の子会社として 2013年に設立。市内に2機の発電施設を有し、市の世帯数と同等の一般家庭 25,000 世帯分の電力を生み出している。今年から、市内で発生する柿の剪定木や堤防の刈草などの未利用資源を発電の燃料に生かせるかといった可能性調査に乗り出す。2025年度は農水省の交付金を受けており、県や市などと協議会を立ち上げて連携しながらエネルギーの地産地消を目指す【岐阜新聞 : 2025/03/14、岐セン (株) : 2025/03/20】

<https://www.gifu-np.co.jp/articles/-/513656>

<https://www.gisen.co.jp/news/%E5%AD%90%E4%BC%9A%E7%A4%BE-%E5%B2%90%E9%98%9C%E3%83%90%E3%82%A4%E3%82%AA%E3%83%9E%E3%82%B9%E3%83%91%E3%83%AF%E3%83%BC%E3%81%A8%E7%91%9E%E7%A9%82%E5%B8%82%E3%81%8C-%E3%82%AB%E3%83%BC%E3%83%9C%E3%83%B3/>

■ラグビーリーグワンで、「カーボン・オフセット付き観戦チケット」誕生。ジャパンラグビーリーグワン所属のラグビーユニオンチームの一つ、「静岡ブルーレヴズ (株) (静岡) は、アスエネ (株) (東京)、Fan Circle (株) (東京) と協業し、新東海製紙 (株) (静岡) が創出した再エネバイオマス由来の J-クレジットを調達。2024-25 シーズンホストゲームラスト 2 試合となる 4月27日 (日) の第 16 節の試合と 5月3日 (土) の第 17 節の試合の CO<sub>2</sub> 排出量をカーボン・オフセットしたと発表。CO<sub>2</sub> 排出量は、2023-24 シーズンを参考にし、エコパスタジアムが一試合あたり約 17 t-CO<sub>2</sub>、ヤマハスタジアムが同約 16 t-CO<sub>2</sub> としている。また地域住民やファンも環境アクションに参加できる取り組みとして、通常チケット価格に 100 円を加えた「新東海製紙カーボン・オフセット付きチケット」を販売。カーボン・オフセット付きチケットの販売は、ジャパンラグビーリーグワンとして初の試み【PR TIMES : 2025/03/13】

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000083.000090761.html>

■コンビナートが立地する山口県周南市で、温室効果ガスの削減策を考えるシンポジウム（3月15日）。シンポジウムは周南市に工場を持つ5つの企業などで作る協議会が開催。総合化学メーカーの東ソー（株）（登記上の本店・山口）の社長が講演し、温室効果ガスの排出量を削減するため、工場で排出されるガスからCO<sub>2</sub>を回収して化学製品の原料に活用する設備を建設し、2024年11月から稼働していることなど、これまでの取り組みを説明。さらに老朽化した自社の石炭火力発電所を1か所廃止し、建築廃材などを燃料にするバイオマス発電所を新たに建設して1年後に稼働させる計画についても紹介した【NHK NEWS WEB：2025/03/15】

<https://www3.nhk.or.jp/lnews/yamaguchi/20250315/4060022644.html>

■バイオマス燃料製造装置メーカーの（株）トロムソ（広島）、研究開発を担うバイオチャーR&Dセンターを尾道市因島重井町にある旧フラワーセンターで開設へ。同社はもみ殻以外にも多くの農業残渣をバイオ炭の原料として考えており、バイオ炭の分析から栽培実証まで行える施設を建設する。R&Dセンターはバイオ炭製造装置開発棟、バイオ炭研究棟および栽培棟で構成。電力が使用できない地域・場所でのバイオ炭製造も見越してレンガ窯タイプのバイオ炭製造装置・窯を開発する。バイオ炭研究棟ではバイオ炭の組成分析及び温室効果ガスの計測等が出来る設備を導入。R&Dセンターは11月完成予定で、島内にある本社も移す【中国新聞：2025/03/17、（株）トロムソ：2025/03/21】

<https://www.chugoku-np.co.jp/articles/-/612437>

<https://tromso.co.jp/archives/2025/03/21/5331/>

■Green Earth Institute（株）（東京、以下「GEI」）、木質バイオマスからバイオエタノールを生産するプロセスについて、技術情報やノウハウ等をテクノロジーパッケージとして提供する契約を締結したと発表。自動車分野や航空分野におけるバイオ燃料素材としてのバイオエタノールには高い期待が集まっており、食料に競合しない木質バイオマスをはじめとするリグノセルロース系のバイオマスを原料としてバイオエタノールを生産する研究は数多く行われている。しかし一般的なアルコール酵母はリグノセルロース系のバイオマスに含まれるヘミセルロースから得られるC5糖をバイオエタノールにすることが難しい。またバイオマスをエタノールの原料となる糖に変換するために必要な酵素のコストが高いといった課題がある。GEIは効率的にC5糖をエタノールに変換できるアルコール酵母を開発。当該アルコール酵母を使いつつ酵素をリサイクルすることで酵素の使用量を大幅に減らすことが出来るプロセスにより、生産効率の向上と低コスト化を実現した。今回、このプロセスを組み込んだプラントを設計・建設しようとするエンジニアリング会社と契約を締結。今後はテクノロジーパッケージ型のビジネスモデルを拡大すべく、複数のエンジニアリング会社との提供契約を企図しているため、社名は非公開にするとのこと【Green Earth Institute（株）：2025/03/18】

[https://contents.xj-](https://contents.xj-storage.jp/xcontents/AS04799/a694686e/278e/488a/a67b/e1106f47985b/140120250312592383.pdf)

[storage.jp/xcontents/AS04799/a694686e/278e/488a/a67b/e1106f47985b/140120250312592383.pdf](https://contents.xj-storage.jp/xcontents/AS04799/a694686e/278e/488a/a67b/e1106f47985b/140120250312592383.pdf)

■林野庁、令和7年度の民間団体に対する林野庁補助事業の補助金交付候補者について（第1回公募分）決定し、公表。詳細は下記サイトを参照【林野庁：2025/3月】

<https://www.rinya.maff.go.jp/j/supply/hojyo/attach/pdf/index-40.pdf>

## 2. ペレット関連情報

■国立大学法人電気通信大学榎木研究室、雪発電（2025年）の成功報告を公表。2月18日（火）に北海道倶知安町のニセコ地域にある実験設備で、「雪発電」に関するプレス向け公開を実施。今年度は発電能力7kWのスターリングエンジンを使用し、低温熱源として雪（不凍液を熱媒体として利用）を、高温熱源としてバイオマスペレットをガス化・燃焼させて得られる熱エネ

ルギーを活用した。スターリングエンジンを冷却する不凍液（低温熱源）は約90℃まで加熱されるが、雪と同じ温度（約0℃）に至るまでの温度で段階的に熱を活用することにより、本来は捨てられてしまう排熱を最大限に生かし、雪国における暖房や融雪などの需要を同時に満たすことが可能になる。今回の実験で達成した主な成果は、①発電した電気の活用、②道路

融雪、③屋根融雪、④部屋暖房、⑤温水の取得、⑥融雪水の有効利用。実験施設内の動力ポンプ（消費電力1kW）や暖房ファン、実験データ取得用の詰所（照明含む）を含む全ての電力をこの雪発電でまかなうことにも成功し、実験施設は実質的な「カーボンニュートラル」を達成している【国立大学法人電気通信大学榎木研究室：2025/02/21】

<https://www.therme.lab.uec.ac.jp/?p=1962>

■ テスホールディングス（株）（大阪、以下「テスHD」）連結子会社の PT PTEC RESEARCH AND DEVELOPMENT（インドネシア、以下「PTEC社」）が、EFBペレット工場の建設予定地である同国北スマトラ州セイマンケイ工業団地にて地鎮祭を実施。世界最大のパーム油生産国であるインドネシアでは、パーム油を搾油する際に大量に発生する EFB の大半が未利用のまま放置され、土壌汚染や腐敗時に温室効果ガスのメタンガスが発生することが問題視されている。テスHDグループは、2018年に農作物残渣をバイオマスペレットに加工するための研究開発拠点としてインドネシアで PTEC社を設立。同国西ジャワ州で EFBペレット製造に関する小規模工場を建設する計画だったが、パートナーであるインドネシア国営パーム農園企業の PTPNグループとも協議を重ね、EFBペレット製造における大規模商業化の早期実現を目指してセイマンケイ工業団地に建設場所を変更した。新工場の敷地面積は約11,000㎡。操業開始は2026年6月の予定。操業開始後の EFBペレットの生産量は約1万t/年となる予定であり、インドネシア国内や日本に向けて販売する予定【テスホールディングス（株）：2025/02/21】

<https://ssl4.eir-parts.net/doc/5074/tdnet/2571840/00.pdf>

■ 静岡県東部の小山町で2025年7月、本州最大級の木質ペレット工場稼働へ。2011年より同町で間伐材等を原料とする木質ペレットの製造販売を行ってきた富士総業（株）（静岡）が、子会社の「FOREST CYCLE」（同）を通じ操業する。原木を扱う静岡森林経営協同組合（同）の隣接地に整備し、共同組合をはじめとする近隣林業事業者等より未利用材を調達。工場内で加工したチップ・ペレットを燃料に、ドイツ・Burkhardt社製ガス化熱電併給装置（165kW×3基）でガス化発電を行う。バックアップ用途等で、（株）丸文製作所（静岡）が供給する二光エンジニアリング（株）（静岡）製ペレット焚き温水ボイラ（580kW×2基）も導入する。ガス化過程で発生する熱はペレット製造工

程で木材の乾燥に活用。また生産されたペレットは地域の木質バイオマス発電所及びペレットボイラ等の燃料として供給し、チップは近隣のパーティクルボード製造工場へ販売する計画。発電した電力は、FITを通して東京電力パワーグリッド（株）（東京）に売電する。投資額は約24億円。林野庁や県の補助金のほか、（一社）グリーンファイナンス推進機構（東京）から2億円の出資を受ける【日本経済新聞：2025/02/23、47NEWS、（一社）グリーンファイナンス推進機構、OSR No.646：2025/02/25】

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOCC2090L0Q5A220C200000/>

<https://www.47news.jp/12219596.html>

<http://www.greenfinance.jp/example/case20250225.pdf>

■（株）ビーエイブル（福島）、再生可能エネルギー事業を拡大へ。出力数千kW級の木質バイオマス発電所2カ所を3年後をめどに建設する。県内には同社が関西電力（株）（大阪）、（株）九電工（福岡）とともに出資したエイブルエナジー合同会社（福島）が運営する「福島いわきバイオマス発電所」がある。同発電所は福島県いわき市の好間中核工業団地内において、2022年4月1日に営業運転開始。海外産木質ペレットを燃料として使用し、定格出力112,000kW、発電電力量約7億7,000万kWh/年と、木質バイオマス専焼としては国内最大級【日刊工業新聞：2025/02/25、（株）ビーエイブル】

<https://www.nikkan.co.jp/spaces/view/0080515>

<https://www.able-can.jp/business/energy/bio/>

■（株）環境フレンドリーホールディングス（東京）、連結子会社の（株）EFインベストメント（東京）が、田原バイオマス発電所（愛知県田原市）に係る田原バイオマス発電事業向け匿名組合出資持分を、匿名組合員である SOL 田原バイオインベストメント合同会社（東京）より取得することを決議したと発表。田原バイオマス発電所は木質ペレット・PKSを燃料とし、発電出力50MW。2025年4月運開予定。匿名組合契約に基づく出資比率は石油資源開発（株）（東京）が39.9%、静岡ガス&パワー（株）（静岡）が20.0%、（株）東京エネシス（東京）が20.0%、川崎近海汽船（株）（東京）が7.0%、第一実業（株）（東京）が6.0%、岩谷産業（株）（大阪）が5.0%、SOL 田原バイオインベストメントが2.1%。環境フレンドリーホールディングスは今年2月3日、Solariant Capital LLC（USA）とのバイオマス発電所等

に係る業務提携を決議。互いの専門知識やリソースを活用し、共同で事業を推進するとともに Solariant Capital の日本法人「Solariant Capital (株)」(東京) が 100%出資する SOL 田原バイオインベストメントが保有する、田原バイオマス発電事業に係る匿名組合出資持分の譲り受けについて協議を行ってきた。昨今の円安の影響で海外から輸入する燃料代が高騰しているが、同発電所は運転開始から 15 年間は燃料購入代金の約 90%を為替予約によって固定しており、総事業費予算 384 億円のうち 261 億円は (株) SBI 新生銀行 (東京) をアレンジャーとした銀行団からのプロジェクトファイナンスで既にファイナンスクローズしている等のことから安全性が担保されている案件とみなした。同社がバイオマス発電事業に参入するのは初【(株)環境フレンドリーホールディングス:2025/02/27、2025/02/03、田原バイオマス発電所合同会社】

[https://www.ef-hd.com/wp-content/uploads/2025/02/20250227\\_3ef.pdf](https://www.ef-hd.com/wp-content/uploads/2025/02/20250227_3ef.pdf)  
[https://www.ef-hd.com/wp-content/uploads/2025/02/20250203\\_1ef.pdf](https://www.ef-hd.com/wp-content/uploads/2025/02/20250203_1ef.pdf)  
<https://taharabiomass.co.jp/>

■東北電力 (株) (宮城)、新潟県聖籠町の新潟東港工業団地内にある木質バイオマス発電所「新潟東港バイオマス発電所」において火災が発生したと発表(3月2日)。当日 11 時 00 分頃、燃料の燃え殻などを一時的に貯蔵する「ベットアッシュ搬送設備」と呼ばれる箇所から火災が発生。ただちに消防へ通報するとともに発電所の所員が初期消火活動を行い、11 時 45 分頃消防によって鎮火を確認。負傷者および発電所敷地外への影響はなく、発電は継続。原因については現在調査中。同発電所はエクイス・デベロップメント・ピーティーイー・リミテッド (シンガポール) が 80%、東北電力が 20%出資する新潟東港バイオマス発電合同会社が運営。東北電力が発電設備の設計・建設時におけるオーナーズエンジニアリング業務および営業運転開始後の運転・保守業務を担当。主に東南アジアから輸入する木質ペレットと PKS を燃料とし、発電出力 5 万 kW、年間発電量は約 3.6 億 kWh。発電した電力は FIT を通じて東北電力ネットワーク (株) (宮城) に売電している。2024 年 12 月 23 日運転開始【メガソーラービジネス:2025/03/05、東北電力 (株):2025/03/02】

<https://project.nikkeibp.co.jp/ms/atcl/19/news/00001/04843/?ST=msb>

[https://www.tohoku-epco.co.jp/news/normal/1246255\\_2558.html](https://www.tohoku-epco.co.jp/news/normal/1246255_2558.html)

■(株)レノバ(東京)の持分法適用会社である合同会社唐津バイオマスエナジー(佐賀、以下「唐津 GK」)が保有する唐津バイオマス発電所、営業運転開始時期を変更へ。2025 年 3 月中の運転開始に向けて試運転を進めていたが、長期間の安定稼働に向けたボイラ・タービン設備の調整等に時間を要しているため、2025 年 9 月中(予定)に変更した。FIT 売電期間は 2044 年 11 月 30 日までとなる見通し。唐津バイオマス発電所は木質ペレット、PKS を燃料とし、設備容量 49.9MW、想定年間発電量約 35,000 万 kWh (一般家庭約 11 万世帯の年間使用電力量に相当)の大型バイオマス発電所。レノバ、東邦ガス(株)(愛知)、JA 三井リース(株)(東京)、(株)イノセント(宮崎)が出資する唐津 GK が発電事業者。東洋エンジニアリング(株)(千葉)と日鉄エンジニアリング(株)(東京)による共同企業が発電設備一式の設計、機器資材調達、建設工事、試運転までの EPC 業務を一括請負で実施している。唐津 GK は EPC 契約に基づく営業運転開始時期からの変更に伴い、一定期間は EPC から完工遅延損害賠償金を受領する見込み【(株)レノバ:2025/03/03、東洋エンジニアリング(株):2021/09/28】  
<https://ssl4.eir-parts.net/doc/9519/tdnet/2575720/00.pdf>  
<https://www.toyo-eng.com/jp/ja/company/news/?n=3518>

■北陸電力(株)(富山)、福井県敦賀市にある敦賀火力発電所 2 号機で石炭と木質バイオマスの混焼発電を拡大するための工事を終え、3 月 5 日に竣工式を開催。同社は脱炭素化の取り組みの一環として、2007 年から同発電所 2 号機で燃料の石炭の一部を木質バイオマスに換えて発電。その発電比率を高めようと、従来の木質チップに加え、木質ペレットの導入に向け 5 年前から設備の増設工事を行ってきた。新たに完成したのは 1~2 カ月分の木質ペレットを貯蔵できるサイロ 8 基や燃料を供給するコンベアで、既にある設備の一部も改良。去年 11 月から本格的に運用が始まっており、同発電所 2 号機の全ての発電量に占めるバイオマス発電の比率は、これまでの 1%から 15%に引き上げられた。削減される CO<sub>2</sub> 排出量は、一般家庭約 19 万 3,000 世帯が年間に排出する CO<sub>2</sub> 排出量に相当する約 50 万 t/年に増加。現在はホワイトペレットを使用しているが、2025 年度以降には植物などを半炭化した燃焼効率の高い「ブラックペレット」も導入する予定【日本経済新聞、福井テレビ、FBC NEWS

NNN : 2025/03/05】

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOCC048Z00U5A300C2000000/>

<https://www.fukui->

[tv.co.jp/?fukui\\_news=co2%E6%8E%92%E5%87%BA%E9%87%8F%E3%82%92%E5%B9%B4%E9%96%9350%E4%B8%87%E3%83%88%E3%83%B3%E5%89%8A%E6%B8%9B%E3%80%80%E6%95%A6%E8%B3%80%E7%81%AB%E5%8A%9B%E7%99%BA%E9%9B%BB%E6%89%802%E5%8F%B7%E6%A9%9F](https://www.fukui-tv.co.jp/?fukui_news=co2%E6%8E%92%E5%87%BA%E9%87%8F%E3%82%92%E5%B9%B4%E9%96%9350%E4%B8%87%E3%83%88%E3%83%B3%E5%89%8A%E6%B8%9B%E3%80%80%E6%95%A6%E8%B3%80%E7%81%AB%E5%8A%9B%E7%99%BA%E9%9B%BB%E6%89%802%E5%8F%B7%E6%A9%9F)

<https://news.ntv.co.jp/n/fbc/category/economy/fb44e3615e159d4a21aa155d8511fd97a0>

■木質バイオマス発電所の新設を計画する高知県梶原町、ペレット増産に期待。梶原町は、2022年に環境省の「脱炭素先行地域」(第1回)に選定されて以降、具体事業の計画策定業務や設計業務に取り組み、2024年1月には地域新電力会社「ゆすはらエネルギー(株)」を設立。同年10月に施設工事の入札を行い、11月には「梶原町脱炭素先行地域事業」竣工式を実施するなど、事業を確実に進行させてきている。2025年中には木質ペレットガス化発電330kW(165kW×2台)を導入。発電による再エネ電気(2,475,000kWh)を専用の電線(地中埋設)を通して役場庁舎をはじめとする公共施設に供給し、同時に発生する熱(3,900,000kWh)をお湯に換え、町内にある雲の上の温泉、プール、ホテルに供給する予定。同町には既に第三セクターゆすはらペレット(株)のペレット製造工場があるが、発電の原料となる木質ペレット製造施設の増設も行う。各工事の完成は、2026年3月末の予定【高知新聞：2025/03/12、広報ゆすはら：2024/04/20、2024/12/20、ゆすはらエネルギー(株)、梶原町：2024/2月】

<https://www.kochinews.co.jp/article/detail/839729>

<http://www.town.yusuhara.kochi.jp/town/kouhou/>

<https://www.e-yusuhara.jp/>

[http://www.town.yusuhara.kochi.jp/media/004/202402/zerocarbon\\_keikakuteian.pdf](http://www.town.yusuhara.kochi.jp/media/004/202402/zerocarbon_keikakuteian.pdf)

■(株)レノバ(東京)、同社が出資する合同会社唐津バイオマスエナジー(佐賀)が燃料として使用するPKSについて、GGL認証を3月4日付けで取得したと発表【認証番号：GGL-903930】。GGL認証は、2002年に発足したGreen Gold Label Foundationが運営する持続可能なバイオマスのための国際的な

認証プログラム。生産、加工、輸送から、バイオエネルギーやバイオベース用途における最終利用までのサプライチェーン全体を対象としている。2024年4月以降、日本のFIT対応のバイオマス発電所向けに供給されるPKSは、制度で認められた第三者認証の取得が必要となっている【(株)レノバ：2025/03/14】

[https://www.renovainc.com/news/others/20250314\\_5579/](https://www.renovainc.com/news/others/20250314_5579/)

■大崎クールジェン(株)(広島)、革新的な石炭火力発電の実証で50%のバイオマス混合に成功。同社は中国電力(株)(広島)と電源開発(株)(東京)の共同出資により設立。2012年度から経産省補助事業、2016年度からNEDO助成事業として酸素吹石炭ガス化複合発電(酸素吹IGCC)技術、二酸化炭素分離回収技術および燃料電池技術に関する大型実証試験を実施する「大崎クールジェンプロジェクト」を実施してきた。このプロジェクトで設置した設備(CO<sub>2</sub>分離・回収型IGCC設備)および得られた技術を活用し、2023~2024年度の2年間でバイオマス混合ガス化技術開発を実施。2024年9月より約60日間の本格的なバイオマス混合ガス化の実証試験を開始し、石炭50%と木質ペレットを加熱して炭化した「ブラックペレット」最大50%での各種プラントデータを取得することに成功。CO<sub>2</sub>分離回収が90%以上という前提ではあるが、この大崎クールジェンの先進技術とバイオマス燃料・地中貯留を組み合わせれば、カーボンニュートラルはもとよりその先のカーボンネガティブの実現も可能である、としている。今後は、実証試験データをとりまとめ、最適なシステムの検討を行っていく【ニュースイッチ：2025/03/15、大崎クールジェン(株)プロジェクトガイドVol.19：2024/05/07、同Vol.21：2025/02/14】

<https://newswitch.jp/p/45005>

<https://www.osaki-coolgen.jp/publications/>

■カナダ最大の木質ペレット業界団体であるカナダペレット協会(=Wood Pellet Association of Canada、以下「WPAC」)、ウェブサイトの多言語化と日本市場啓発キャンペーンの実施について発表。WPACの一部のウェブサイトが日本語、中国語、韓国語で閲覧可能に。日本は石炭の段階的廃止および2050年までのカーボンニュートラル達成を積極的に推進するため、世界で最も急速に成長している木質ペレット輸入市場。FITがカナダのペレット部門に大きな機会を創出しているとして、日本の顧客、政策立案者等との関係性をさらに強化するため、日本

でコミュニケーションキャンペーンを開始する。具体的には「カナダ産木質ペレットのサステナビリティ」、「厳格な法規制が支えるカナダの持続可能な森林管理」、「カナダ産木質ペレットの持続可能性と合法性を保証する第三者認証」、「気候変動対策目標の達成においてカナダ産木質ペレットが担う重要な役割」について説明する日本語のプレスリリースを出すとともに検索エンジン広告や日本の電力・エネルギー専門メディア「スマートジャパン」で特集記事を掲載するなどしている。さらに提供したすべての情報をまとめたファクトシートを用意するなど、情報発信に力を注いでいる【WPAC：2025/03/19、Digital PR Platform：2025/03/04～24、スマートジャパン：2025/03/10】

<https://pellet.org/news/wpac-expands-international-reach-with-new-website-and-japanese-market-awareness-campaign/>

<https://digitalpr.jp/r/105126>

[https://digitalpr.jp/r\\_detail.php?release\\_id=105568](https://digitalpr.jp/r_detail.php?release_id=105568)

[https://digitalpr.jp/r\\_detail.php?release\\_id=106095](https://digitalpr.jp/r_detail.php?release_id=106095)

<https://digitalpr.jp/r/106426>

<https://www.itmedia.co.jp/smartjapan/articles/2503/10/news010.html>

■宮崎県日向市にある日向バイオマス発電所、3月18日に竣工式を開催。大阪ガス（株）（大阪）、伊藤忠商事（株）（大阪）子会社の青山ソーラー（株）（東京）、東京センチュリー（株）

（東京）、（株）東京エネシス（東京）が共同で開発を進めてきた発電所で、商業運転は2024年10月16日に開始済み。燃料には、近くの細島港で荷揚げされる東南アジアの木質ペレットや林業が盛んな県内の木質チップなどを活用。大阪ガス子会社で国産材木質燃料を取り扱う（株）グリーンパワーフュエル（大阪）が木質チップの供給を担い、日向市に本社を構える八興運輸（株）が輸入木質ペレットを含む燃料全般の荷揚・保管・輸送をサポートする。発電出力は50MW【FNNプライムオンライン：2025/03/18、大阪ガス（株）：2024/10/16】

<https://www.fnn.jp/articles/-/844764>

[https://www.osakagas.co.jp/company/press/pr2024/1782380\\_56470.html](https://www.osakagas.co.jp/company/press/pr2024/1782380_56470.html)

■静岡県御前崎市にある御前崎港バイオマス発電所建設現場で起きた死傷事故で、工事の元請け会社と現場責任者の男性が不起訴に。2023年2月、発電所建設工事現場で作業員11人が一酸化炭素中毒とみられる症状で倒れ、このうち男性作業員一人が死亡。磐田労働基準監督署は今年1月、千葉県の元請け会社と現場責任者の男性を労働安全衛生法違反の疑いで書類送検。しかし地検浜松支部は3月14日付でいずれも不起訴処分。理由は不明【静岡朝日テレビ：2025/03/20】

[https://look.satv.co.jp/content\\_news/incident/53545](https://look.satv.co.jp/content_news/incident/53545)

※OSR：バイオマス・再可エネ等の専門情報誌「オンサイト・レポート」の略

### 3. イベント情報（国内）

◎：木質ペレット燃料、ストーブ、ボイラの関連イベント

◎（一財）地球・人間環境フォーラム「原生林を燃やす日本のバイオマス発電～カナダの燃料生産地 視察報告会」

2025年4月9日（水）

オンライン（Zoom ウェビナー）

[https://www.gef.or.jp/news/event/250409bcforest\\_biomass](https://www.gef.or.jp/news/event/250409bcforest_biomass)

■バイオマス産業社会ネットワーク（BIN）第228回研究会「作物残さ、エネルギー作物等による産業用熱利用の可能性（仮題）」

2025年4月22日（火）

地球環境パートナーシッププラザ（東京都渋谷区）/ZOOM

<https://www.npobin.net/activity/seminar.html#228>

◎CMT「BIO FUELS & CARBON」

2025年5月20日（火）～21日（水）

東京マリオットホテル（東京都）

<https://www.cmtevents.com/aboutevent.aspx?ev=250501>

◎CMT「BIOMASS PELLETS TRADE & POWER」

2025年5月21日（水）～23日（金）

東京マリオットホテル（東京都）

<https://www.cmtevents.com/aboutevent.aspx?ev=250501>

◎CMT「2nd Annual BIOINNOVASIA」

2025年5月20日（火）～23日（金）

東京マリオットホテル（東京都）

<https://www.cmtevents.com/aboutevent.aspx?ev=250501>

◎日報ビジネス（株）「2025 NEW 環境展/2025 地球温暖化防止展」

2025年5月28日（水）～30日（金）

東京ビッグサイト（東京都江東区）

<https://www.n-expo.jp/>

◎ペレットクラブ「Bioenergy 2025」（第3回）

2025年5月28日（水）～30日（金）

東京ビッグサイト東6ホール S-600（地球温暖化防止展内）

<https://pelletclub.jp/library/2025/02/-bioenergy-2025.html>

■九州イノベーション WEEK 実行委員会「九州 GX 脱炭素推進 EXPO」

2025年6月4日（水）～5日（木）

マリンメッセ福岡 A 館（福岡県福岡市）

<https://kfb-shien.com>

■ジャパン・エネルギー・サミット 2025

2025年6月18日（水）～20日（金）

東京ビッグサイト（東京都江東区）

<https://www.japanenergyevent.com/>

■RX Japan（株）第5回 脱炭素経営 EXPO 【秋展】

2025年9月17日（水）～19日（金）

幕張メッセ（千葉県千葉市）

<https://www.decarbonization-expo.jp/hub/ja-jp/about/dcm.html>

■（一社）日本木工機械工業会「日本木工機械展 2025」

2025年10月2日（木）～4日（土）

ポートメッセなごや 第1展示館、屋外（愛知県名古屋市）

<https://mokkiten.com/>

■RX Japan（株）第5回 脱炭素経営 EXPO 【関西展】

2025年11月19日（水）～21日（金）

インテックス大阪（大阪府大阪市）

<https://www.decarbonization-expo.jp/hub/ja-jp/about/dcm.html>

#### 4. イベント情報（海外）

■Argus Biomass Conference

2025年4月1日（火）～3日（木）

ロンドン（UK）

<https://www.argusmedia.com/en/events/conferences/biomass-conference>

■Argus Biofuels & Feedstocks Asia Conference

2025年4月22日（火）～24日（木）

シンガポール

[https://www.argusmedia.com/en/events/conferences/biofuels-and-feedstocks-asia-conference?utm\\_source=partner&utm\\_medium=referral&utm\\_campaign=apac-erc-2025-04-bio-biofuels&utm\\_content=apac-erc-2025-04-bio-biofuels-wba](https://www.argusmedia.com/en/events/conferences/biofuels-and-feedstocks-asia-conference?utm_source=partner&utm_medium=referral&utm_campaign=apac-erc-2025-04-bio-biofuels&utm_content=apac-erc-2025-04-bio-biofuels-wba)

■ICCI 2025 - International Energy and Environment Fair and Conference

2025年4月24日（木）～26日（土）

イスタンブール（トルコ）

<https://icci.com.tr/en/icci-home/>

◎WORLD OF FIREPLACES

2025年4月28日（月）～30日（水）

ライプツィヒ（ドイツ）

<https://www.world-of-fireplaces.de/home/>

■Webinar - What It Takes to Produce and Deliver Sustainability-Certified Biomass

2025年4月29日（火）

ウェビナー

<https://www.worldbioenergy.org/news/881/47/Webinar->

[What-It-Takes-to-Produce-and-Deliver-Sustainability-Certified-Biomass/](#)

■Bioenergy Dubai 2025 – International Conference & Exhibition on Bioenergy & Sugar

2025年5月5日(月) ~ 5月7日(水)

ドバイ(アラブ首長国連邦)

<https://sugar-bioenergy.com/>

■Bio-CO2 Use and Removal 2025

2025年5月6日(火)

ヘルシンキ(フィンランド)

<https://www.bioenergia.fi/en/2025/02/14/join-bio-co2-use-and-removal-2025-in-helsinki-on-may-6/>

■EXPO BIOMASA

2025年5月6日(火) ~ 8日(木)

バリャドリード(スペイン)

<https://www.expobiomasa.com/en/>

■BBB Summit 2025

2025年5月8日(木) ~ 9日(金)

ニューデリー(インド)

<https://biogas-india.com/international-summit-on-bioenergy-value-chain/>

■11th International Conference on Renewable Energy Gas Technology, REGATEC 2025

2025年5月20日(火) ~ 21日(水)

ヴァイマル(ドイツ)

<https://regatec.org/>

■Energim ä ssan och Sveriges Energiforum

2025年5月21日(水) ~ 22日(木)

ストックホルム(スウェーデン)

<https://www.svebio.se/en/evenemang/energimassan-och-sveriges-energiforum/>

■CO2 Capture, Storage & Reuse 2025

2025年5月21日(水) ~ 22日(木)

コペンハーゲン(デンマーク)

<https://fortesmedia.com/co2-capture-storage-reuse-2025,4,en,2,1,106.html>

■LIGNA

2025年5月26日(月) ~ 30日(金)

ハノーファー(ドイツ)

<https://www.ligna.de/en/>

■Biofuel Expo 2025 – International Exhibition & Conference on Biofuel & Green Hydrogen

2025年6月4日(水) ~ 6日(金)

グレートノイダ(インド)

<https://www.biofuelexpo.com/>

■Elmia Wood

2025年6月5日(木) ~ 7日(土)

ヨンショーピング(スウェーデン)

<https://www.elmia.se/en/wood/>

■Sustainable Fuels Summit: Sustainable Aviation Fuel & Renewable Diesel

2025年6月9日(月) ~ 11日(水)

ネブラスカ州オマハ(USA)

[https://few.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pagelid=Sustainable\\_Fuels\\_Summit\\_SAF\\_Renewable\\_Diesel\\_Biodiesel](https://few.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pagelid=Sustainable_Fuels_Summit_SAF_Renewable_Diesel_Biodiesel)

■Carbon Capture & Storage Summit

2025年6月9日(月) ~ 11日(水)

ネブラスカ州オマハ(USA)

[http://fuelethanolworkshop.com/ema/DisplayPage.aspx?pagelid=Carbon\\_Capture\\_Storage\\_Summit](http://fuelethanolworkshop.com/ema/DisplayPage.aspx?pagelid=Carbon_Capture_Storage_Summit)

■2025 International Fuel Ethanol Workshop & Expo

2025年6月9日(月) ~ 11日(水)

ネブラスカ州オマハ(USA)

<https://2025->

[few.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pagelid=Home](http://few.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pagelid=Home)

■ EUBCE 2025 - 33rd European Biomass Conference and Exhibition

2025年6月9日(月)～12日(木)

バレンシア(スペイン)

<https://www.eubce.com/about-the-conference/#>

■ ENVEX2025 - International Exhibition on Environmental Technology and Green Energy

2025年6月11日(水)～13日(金)

ソウル(韓国)

<https://www.envex.or.kr/eng/main/index.asp>

◎10th Pellet Forum & 3rd European Pellet Forum

2025年6月12日(木)～13日(金)

グディニャ(ポーランド)

<https://magazynbiomasa.pl/pellet-forum/>

■7th Biogas PowerON

2025年9月24日(水)～25日(木)

ハンブルグ(ドイツ)

<https://fortesmedia.com/biogas-poweron-2025,4,en,2,1,109.html>

■Future of Biogas West

2025年10月6日(月)～8日(水)

アルバータ州カルガリー(カナダ)

<https://biogasassociation.ca/vob2025west/>

■Biogas Intelligence+

2025年10月7日(火)～9日(木)

シュトゥットガルト(ドイツ)

<https://ibbk-biogas.com/schedule/biogas-intelligence-plus/>

■7th Biomass PowerON

2025年10月8日(水)～9日(木)

ストックホルム(スウェーデン)

<https://fortesmedia.com/biomass-poweron-2025,4,en,2,1,110.html>

■All Energy Australia 2025

2025年10月29日(水)～30日(木)

メルボルン(オーストラリア)

<https://www.all-energy.com.au/en-gb.html>

■10th Biogas Congress

2025年12月16日(火)～17日(水)

ワルシャワ(ポーランド)

<https://magazynbiomasa.pl/biogas-congress/>

■HOLZ-HANDWERK 2026

2026年3月24日(火)～27日(金)

ニュルンベルク(ドイツ)

<https://www.holz-handwerk.de/en>

■2026 International Biomass Conference & Expo

2026年3月31日(火)～4月2日(木)

テネシー州ナッシュビル(USA)

<https://2025->

[ibce.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pageld=Home](https://2025-ibce.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pageld=Home)

## 5. 公募等情報(締切順)

■NEDO「2025年度『木質バイオマス燃料等の安定的・効率的な供給・利用システム構築支援事業』に係る公募について」

受付期間:2025年3月3日(月)～4月3日(木)

[https://www.nedo.go.jp/koubo/FF2\\_100417.html](https://www.nedo.go.jp/koubo/FF2_100417.html)

■(一社)地域循環共生社会連携協会「地域脱炭素実現に向けた再エネの最大限導入のための計画づくり支援事業(令和6年

度補正予算)」

公募期間 2025年3月31日(月)～4月25日(金)

[https://rcespa.jp/offering/r07\\_keikaku\\_koubo\\_01](https://rcespa.jp/offering/r07_keikaku_koubo_01)

■(一社)環境共創イニシアチブ 令和6年度補正予算「省エネルギー投資促進支援事業費補助金」

一次公募 2025年3月31日(月)～4月28日(月)

二次公募 2025年6月上旬～7月上旬(予定)

三次公募 2025年8月中旬～9月下旬(予定)

<https://sii.or.jp/setsubi06r/overview.html>

■(一社)環境共創イニシアチブ令和6年度補正予算「省エネルギー投資促進・需要構造転換支援事業費補助金」

一次公募 2025年3月31日(月)～4月28日(月)

二次公募 2025年6月上旬～7月上旬(予定)

三次公募 2025年8月中旬～9月下旬(予定)

<https://sii.or.jp/koujou06r/overview.html>

■環境省令和6年度補正予算「地域レジリエンス・脱炭素化を同時実現する公共施設への自立・分散型エネルギー設備等導入推進事業(地域レジ事業)」

二次公募 2025年4月7日(月)～5月9日(金)

<https://policies.env.go.jp/policy/roadmap/resilience/>

■長野県松本市「松本市再生可能エネルギー導入支援事業補助金」

<https://www.city.matsumoto.nagano.jp/soshiki/51/4407.html>

■千葉県南房総市「南房総市施設園芸木質バイオマス暖房機等設置費等補助金」

<https://www.city.minamiboso.chiba.jp/0000007149.html>

■高知県「高知県林業・木材産業改善資金」

<https://www.pref.kochi.lg.jp/doc/2024041500181/>

■北海道「林業・木材産業改善資金」

[https://www.pref.hokkaido.lg.jp/sr/rrm/05\\_rinkin/k002.html](https://www.pref.hokkaido.lg.jp/sr/rrm/05_rinkin/k002.html)

■滋賀県甲賀市「再生可能エネルギー地域導入促進事業補助金」

<https://www.city.koka.lg.jp/6567.htm>

■滋賀県甲賀市「甲賀市公共的施設等再生可能エネルギー導入事業補助金」

<https://www.city.koka.lg.jp/7406.htm>

■南砺市「木質ペレット燃料購入者支援補助金」

[https://www.city.nanto.toyama.jp/cms-](https://www.city.nanto.toyama.jp/cms-sypher/www/service/detail.jsp?id=20558)

[sypher/www/service/detail.jsp?id=20558](https://www.city.nanto.toyama.jp/cms-sypher/www/service/detail.jsp?id=20558)

■富山県「脱炭素社会推進資金(再生可能エネルギー利用促進枠)」

<https://www.pref.toyama.jp/1300/sangyou/shoukoukensetsu/s>

[houkougyou/kj00012293/kj00012293-008-01.html](https://www.pref.toyama.jp/1300/sangyou/shoukoukensetsu/s)

■富山県「富山県中小企業脱炭素社会推進資金環境施設整備枠融資制度」

<https://www.pref.toyama.jp/1705/kurashi/kankyoushizen/kank>

[you/kj00006264.html](https://www.pref.toyama.jp/1705/kurashi/kankyoushizen/kank)

■千葉県市原市「企業の設備投資に対する奨励制度」

<https://www.city.ichihara.chiba.jp/article?articleId=60237827ece>

[4651c88c1880a](https://www.city.ichihara.chiba.jp/article?articleId=60237827ece)

■NEDO「『持続可能な航空燃料(SAF)等の安定的・効率的な生産技術開発事業』に係る公募について」【予告】

※2025年4月上旬から1カ月間程度公募予定

[https://www.nedo.go.jp/koubo/FF1\\_100423.html](https://www.nedo.go.jp/koubo/FF1_100423.html)

■(一社)環境技術普及促進協会「令和6年度(補正予算)二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金 民間企業等による再生エネの導入及び地域共生加速化事業」

※公募準備中

<https://www.eta.or.jp/offering.php>